

時事新報

民
主
系
統

久しいかあ日本の商況不景氣、甚だしいかな日本の商況不景氣、昔志紙幣國內より濫行して物價日に騰貴する時節に當ては商人が品物を仕入れて又これを賣るに一

候とて澤山に利益を得ざるはなく金と拾ふは石と拾ふよりも容易にてて薄社會堆繁昌の形容を見るのみありしが紙幣に流通漸く其高を減ざ金は融通滑からざるより至りて商品消費の途漸く塞がり物價日に下落して何事と爲する皆損毛の種とならざるひもし是れ即ち商況不景氣の時節にして此時節は今日まで既に五六六年の久しきに亘るといへども絶えて一新回復の模様なく尙や今後何れの日による持続し行くべきやも測られざる有様るは實に遺憾限りなき事と云ふべきなり然るに流石の日本人も餘り不景氣の長年に退屈を催さたるにや數年來の籠城ふ世に依頼すべきは唯公債證書のことと信玄居たる人々も漸く公債證書外に危険を冒し運んだりさんとするの勇氣を生か或は地面を買入れ或は諸會社の株券を買入れ或は鉄道を布設せんとする等其舉動頗る活潑にて往々人を驚かすふ足るものなきにあらずこれを一二年前の有様に比較するに殆んど其社會を別にし其人を別にしたるが如き想ひあるなり而して今商業資本家等に目的とする所を見るに金利は年四五分を以て十分によれに満足し敢て其少あざを言はざるのみあらず其投入したる元金の安否如何の如きも穴勝ち武陥索を要せずと爲すものゝ如く然り當時日本にて安全なる抵當品と云ひト先づ第一に政府の公債證書に指し周玄夫れより政府は保護の下に在る銀行會社及び確實堅固の名譽ある私立會社の株券類を移り漸く下りて漸く不安心と増え終はは只で貰ふも断はりなりと思ふ株券類も少なからざるよとなづ然るに目下公債證書は年五分の利子なるがゆゑに百圓に賣買し某會社の株券は年一割の配當あるがゆゑこれに倍して二百圓より生ずる利金の多少を以て直ちに其價を定先づ公債證書は年一割の配當あるがゆゑに百圓に賣買し某會社の株券は年一割の配當あるがゆゑこれに倍して二百圓ありと唱へ其標章の單純明白ある十呂盤と取るの要だにもなし尚ほ甚だ玄たゞ某地より某地まで鐵道を布設すべし其資本金何百萬圓これを何千株に分ちて募集すべしと云へバ世人未だ其鐵道線路の何様なるを審かにせず又其工費の實際果て何程を要し開業の上にて其収益は果して資本金より対し年何程に當たるべきやと知るに及ばずして先づ其株主中ふ加入し或ひ少しく購入して申込みに後れたる者は無理ふ他人に就て其所有株の分配を依頼し若し承諾あるに於ては一株に付禮金何十圓を出さんとまでに迫まる者さへなり鐵道必ず利益多きものならん又必ず確實なるもはならん併しあがら人間世界何等の事業たるを問はず其事業自身に利益安全を固有するもはとてはなるべく必ずや先づ其事業と實行するの方法如何を顧みるなるべし如何よ文明第一は鐵道あればとて何れの地ふ何様の方法を以てあれを布設し個人が其局に當りて果て其支配を過まらず必ず首尾よく大利を取むることを得べしや否やとも聞く者るゝ及ばず唯鐵道專設の聲のみを聞て其株主た

進み失せるの恐なきや如何又或は兩三年の後より外國人來て内地に雑居すべしと云へば地面の價忽ち騰貴し以前の三倍五倍に賣買して平氣なるが如き是亦或ひ少しく胸算の當を得ざるものあらず如何甚ざ疑はし然れども人間の重する所、金錢の上に出るものゝ甚ざ稀なり斯る貴重の金錢を授受して證書株券鐵道地而を買するに當り世上一人として寸分の油斷と爲すべき謂はれるべからず用意堅固十分より利害を考量して行ふ所の事實世事の表面より現はれて斯の如しこそれば是れぞ即ち今日社會の大勢にして人力の左右を得べきものにあらざるべし此時勢の赴く所後來果て如何の事態を現出すべきや或は事情によりてば理財社會上下顛覆の騒動を醸すともあらん或は無事平穏に繁昌活潑の天地に移るふともあらん何分にも我輩がこれを今日に知らんと欲して知ると能はざる所あり唯理財上世事の變動は善かれ惡也かれ社會極微の部分による有渡りて一家一人としてふれど免かるゝことを得ざるものあるがゆゑに今日の如き異常の時勢に當りて十分四方に眼を配りて世事の視察を怠らず害を避けて利に就くの工風と勉むるふと處世第一の覺悟なるべし

官
禁

三

○廢令第一號
明治十九年(三月)閏令第三號歲入歲出上納規則第五條
中國庫金取扱所、現金仕拂所ハ本年四月一日ヨリ國庫
金出納所ト改稱シ第十一條及第七十六條「現金仕拂所

金なる抵當品と云ひて先づ第一に政府の公債證書に指
を屬さ夫れより政府は保護の下に在る銀行會社及び確
實堅固の名譽ある私立會社の株券類が移り漸く下りて
漸く不安心と増え終は只で貰ふもお断りなりと思
ふ株券類も少なからざるよとならん然るに目下公債證
書株券類の買賣市場の有様を察するゝ目前其證書株券
より生ずる利金の多少を以て直ちに其價を定先公債證
書は年五分の利子なるがゆゑに百圓に賣買し某會社の
株券は年一割の配當あるがゆゑこれに倍して二百圓
ありと唱へ其標準の單純明白ある十呂盤と取るの要だ
にもなし尙ほ甚だ玄に某地より某地まで鐵道を布設
すべし其資本金何百萬圓これを何千株に分ちて募集す
べしと云へバ世人未だ其鐵道線路の何様なるを審かに
せず又其工費の實際果て何程を要し開業の上にて其
収益は果して資本金と對し年何程に當たるべきやと知
るに及ばずして先づ其株主中ふ加入し或ひ少しく躊躇
して申込みに後れた者は無理ふ他人に就て其所有株
の分配と依頼し若し承諾あるに於ては一様に付禮金何
十圓を出さんとまでに迫まる者さへあり鐵道必ず利益
多きものならん又必ず實質なるものがならん併しあがら

○朝鮮遊覽日誌
臺尚道
井上角五郎

卷之三

報

井上角五郎

河東府領ハ西に韓江あり以て全羅道光陽縣と界。その北半ハ該道求禮縣に連る。北は咸陽晉州兩地とし、東南共に昆陽郡とす。東西凡そ六十里南北凡そ八十里（里法比前日所記の如く）或ア朝鮮里法と用ふ。以下之に同じ）。領内ハ山脈縱横みな高く平地は少々。その谷間に在るの

光保は遠りんとする者にして幅二三十間あり水また深く名づけて徳川江と云ふ實に昆陽晉州兩地分界あり小舟と備ふてふゝを過ぐるに一市場あり人家二三戸又過すあは東北に進む更に徳川江の下流を渡り又たゞ郡江に至る徳川江より凡そ十里とも郡江は丹城郡領より流れ来る一水と徳川江と混同せる者にて流急に且つ大あり渴一斗て飢焉其岸は沙原ゆきとて之を早川江

は四五十五匹に至る。傍近に營將の錢を譽め、是を赤梁錢と云ふ。民は農夫尤も多く商相半を廢夫尤も少く、給して餘裕あり木總はこれを他部端より